

原子力規制庁記者ブリーフィング

- 日時：令和5年9月8日（金）14:30～
- 場所：原子力規制委員会庁舎 記者会見室
- 対応：吉野長官官房総務課長

<本日の報告事項>

○司会 それでは、定刻になりましたので、ただいまから9月8日の原子力規制庁定例ブリーフィングを始めます。

○吉野総務課長 報道官の吉野です。

原子力規制委員会の広報日程について御説明いたします。

審査会合・会見などの日程でございます。

9月12日火曜日、第495回核燃料施設等の新規制基準適合性に係る審査会合がございます。案件（3）です。対応は杉山委員です。

7月26日に設置許可を受けたJAEA（日本原子力研究開発機構）のもんじゅの設計工事計画に係る認可申請が審査されます。申請は7月27日に出されておりました、この申請は2つに分けて行われております。今回は、1つ目の申請について、申請の概要とか今後の申請のスケジュールなどについて、JAEAのほうから説明があるという予定になっております。

次に、（4）の案件、第39回東京電力福島第一原子力発電所における事故の分析に係る検討会です。対応は山中委員、杉山委員、田中委員となっております。

議題は3つございまして、まず1つ目が、1号機原子炉格納容器内部調査を踏まえた検討について。

これは、令和5年3月までに行われてきました1号機のペDESTALの調査から推定される現在の設備の状況について、東京電力から説明を受けるものでございます。

議題の2は、モニタリングポスト等の空間線量率データ等の分析についてとなっております。

原子力規制庁では事故時の敷地内外のモニタリングポストで計測された線量や核種の分析から、プラントから放出されたものがどんなものであったのかということ推測して、事象の進展を確認するという検討を行ってきております。今回はデータを基に今後の分析の手順について話合いがなされると聞いております。

議題の3は、1号機における3月11日午後10時前後の高線量率についてとなっております。

1F（福島第一原子力発電所）1号機では、3月11日7時ぐらいに格納容器内の水位が燃料棒の頭頂まで下がって、日付が変わるごとに格納容器が破損したと推定をされております。

す。しかし、破損する前の夜10時前後に、原子炉の入り口付近で作業を行っていた人から、高線量率を計測したという証言が多数得られているということで、なぜそのような計測がされたのかということについて、この議題で検討がされるという予定となっております。

次に、9月14日でございますが、核燃料物質使用者（政令41条非該当）及び核原料使用者に対する原子力規制検査の運用等の説明会がございます。時間は10時から1時間となっております。対応は、大向安全規制管理官です。

少量の核燃料物質や核原料物質を使用する者については、放射性測定の信頼性を確保するために、測定のやり方とか測定に使用する放射線測定器の精度を保つための校正などについて、令和5年8月2日に保安措置に関する運用ガイドが改正されております。今回は、ガイドの改正内容について事業者の説明を行うというものでございます。対象事業者は200程度ございますが、今回は約60事業者からの参加が見込まれているというところでございます。

次に、第1184回原子力発電所の新規制基準適合性に係る審査会合です。

議題は、中国電力株式会社島根原子力発電所3号炉の設計基準への適合性についてとなっております。本件は、平成30年8月10日に設置変更許可申請が出てきた3号炉について審査がされるものでございます。

島根原子力発電所については、2号炉が先行して審査されて、令和3年9月15日に設置許可を受けております。3号炉については、2号炉の許可を受けて、補正が昨年6月29日に提出されました。3号炉については、その後、原子炉の状態を予測評価するための解析コードの審査が進められておまして、今回は関連の審査の5回目ということになります。

その他といたしまして、東京電力に対する適格性判断の再確認に関し、柏崎刈羽原子力発電所で検査が行われます。日程は、9月11日から13日までとなっております。対応は古金谷緊急事態対策監です。取材もお受けする予定となっております。

柏崎刈羽原子力発電所については、8月31日に公開会合で適格性判断の再確認について、東京電力から取組内容の説明を受けております。今回は、その説明を受けまして、今度は現地で取組内容について確認を行っていくというものでございます。

説明は以上となります。何か御質問がありましたらお願いいたします。

○司会 司会より失礼いたします。ただいまの説明中、9月12日の（3）第495回の審査会合の対象施設は、正しくは常陽となります。

<質疑応答>

○司会 それでは、皆様からの質問をお受けします。

いつものとおり所属とお名前をおっしゃってから質問をお願いいたします。御質問のある方は手を挙げてください。

タシマさん。

○記者 共同通信のタシマです。よろしく申し上げます。

広報日程の話ではないのですけれども、今日の午後1時半頃に、福島県などの住民の方たちが、ALPS（多核種除去設備）処理水の海洋放出の差止めを求めて、こちらの原子力規制委員会と東電のほうを提訴しました。規制委員に求めていることとしては、東電が提出した実施計画の認可の取消しと設備の使用前検査の合格の取消しのこの2つです。今後の対応などについてコメントをお願いいたします。

○吉野総務課長 訴訟が提訴されたことについては報道などで承知しておりますが、まだ中の訴状については到達しておりませんので、中身について何か今現在でコメントを申し上げられることはございません。

○記者 ありがとうございます。

○司会 ほかに御質問はいかがでしょうか。

ヨシノさん。

○記者 テレビ朝日、ヨシノです。

ちょっとマニアックな話で申し訳ないですけれども、9月12日の1F事故の検討会ですけれども、議題2のほうで、11日の高線量について、先ほど御説明されたことをもう一回繰り返していただくことはできるでしょうか。

○吉野総務課長 間違いがあったら申し訳ございませんが、議題の3について私の理解の範囲で。議題の3でよろしいでしょうか。

○記者 いや、違います。議題の2です。モニタリングポスト。

○吉野総務課長 モニタリングポストについては、事故時に、どこでどのような線量や核種が出ているかということ进行分析して、プラントから、何が、いつ、どのように放出されたのかというものを推測して、事象進展を推測するという作業を現在しております。今回は、今後、どのように検討していくかという手順について確認と話合いがされると聞いております。

○記者 現場作業員で高線量が確認された時間は12日の何時とおっしゃいましたか。

○吉野総務課長 それは議題の3に関連して申し上げたものなのですが、議題の3は、3月11日午後10時頃に、これは原子炉に入る二重扉の前で高線量を計測しているという証言が幾つか出ております。これは公開されている情報かと思えます。ただ、原子炉の現在のところの推測ですと、7時ぐらいまで水位が燃料棒のところまで下がってきて、日付が変わる頃に破損したという推測になっておりますので、現在のところ、なぜその二重扉のところ10時の時点で高い線量が出たかということは分かっておりません。それを調べるというのが今回の議題となっております。

○記者 ありがとうございます。

○司会 ほかに御質問はいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、本日のブリーフィングは以上としたいと思います。ありがとうございました。

—了—